

電線共同溝

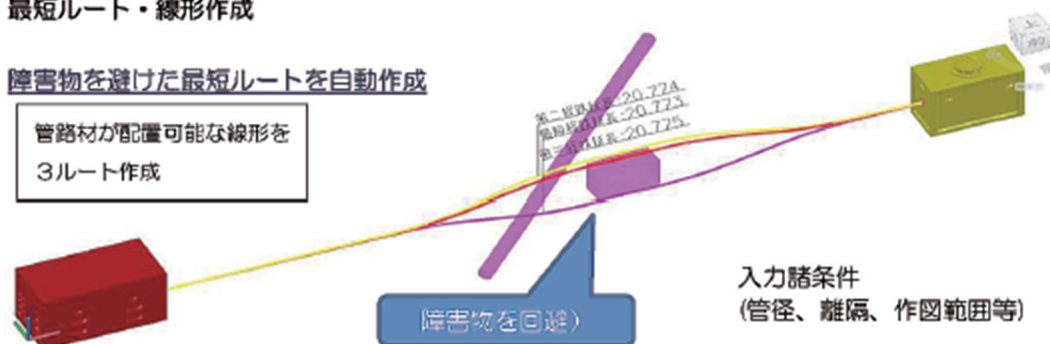
エイテック 支障物回避ルート作成

管路設計を自動化

最短ルート・線形作成

障害物を避けた最短ルートを自動作成

管路材が配置可能な線形を
3ルート作成



障害物を避けた設計ルートも
簡単に作成できる（報道発表
資料から）

オリエンタルコンサルタンツホールディングス（HD）傘下のエイテック（東京都渋谷区、橋義規社長）は、電線共同溝管路の自動設計システムを開発したと発表した。3D空間で埋設物などの支障物件を回避する管路部の最短ルートや線形を作成する機能などを搭載。支障物件の位置や回避方法などの変更にも簡単に対応できる。

新開発のシステムには最短ルート作成機能のほか、設計者がルートの折れ点を指定できる線形編集機能や、管路材の自動割り付け機能も設けた。設計成果として縦断面図、平面図などの図面作成も支援する。オートデスクのBIM/CIMソフトとの連携にも対応。干渉確認、合意形成のための資料作成や数量計算、施工計画の立案にも活用できる。システムは自治体発注の実事業で試行運用中。今後は運用結果を踏まえて機

能向上を図る。

電線共同溝事業は、道路の地下空間に電力線・通信線等を地中化する事業。各種インフラの道路占有者など利害関係者が多岐にわたるため、計画や設計段階の合意形成に多くの時間を要する。

施工段階では支障物件が新たに発見されたり、地域住民などから要望が追加されたりすることもある。円滑な事業推進には、計画・設計段階や施工段階で発生するルート変更や支障物件回避など設計変更が素早く対応することが求められる。